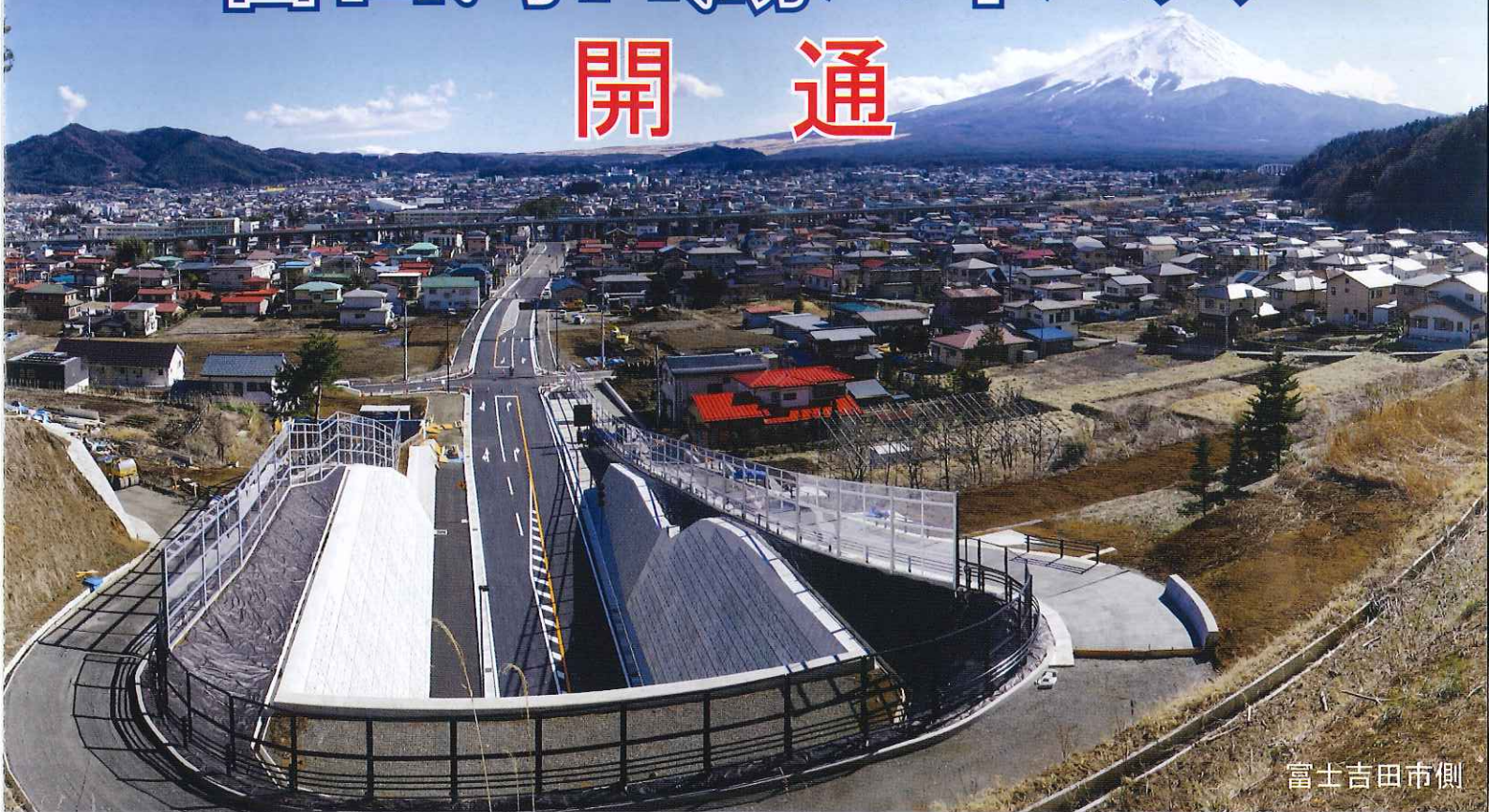


一般国道137号
吉田河口湖バイパス
開 通



ごあいさつ



一般国道137号「吉田河口湖バイパス」及び富士吉田市道新倉南線が、本日ここに開通の運びとなりましたことを、皆様方とともに心からお慶び申し上げます。

国道137号は、古くから「鎌倉街道」や「御坂路」などと呼ばれ、本県の二大生活圏である国中地域と富士北麓地域を結ぶ重要な路線です。

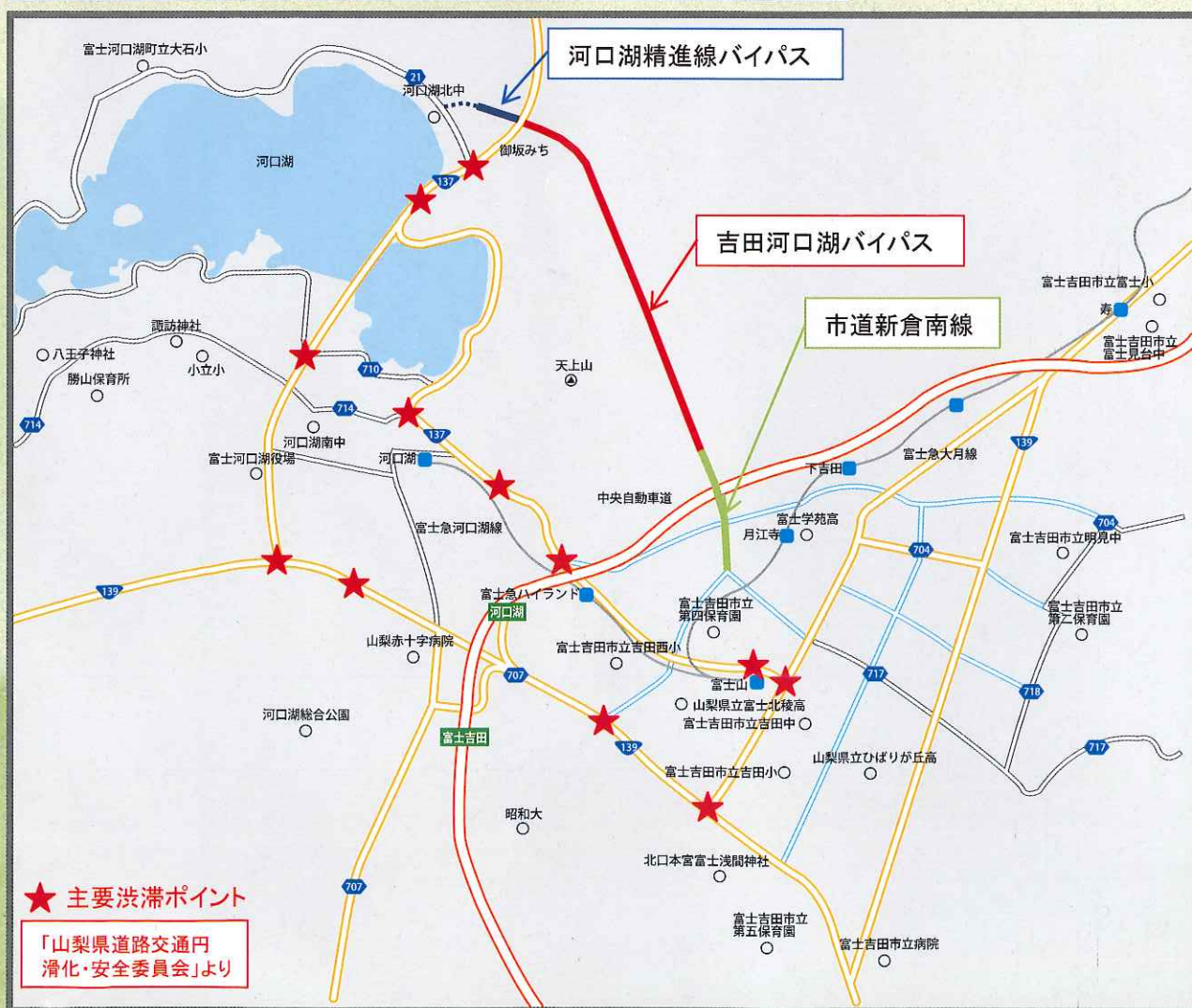
今回の開通により、長い間の懸案であった富士吉田市から富士河口湖町にかけての朝夕の通勤時間帯や観光シーズンを中心とした渋滞の緩和による利便性の向上や、大規模災害時の避難ルートとして住民の皆様の安心・安全を支えるなど、日常生活に大きな変化をもたらすものと期待しております。

今後とも、ダイナミックやまなし「プラチナ社会構想」に沿った、県土づくりに全力で取り組んで参りますので、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成27年 3月27日

山梨県知事 後藤 斎

富士北麓地域の主な道路ネットワーク



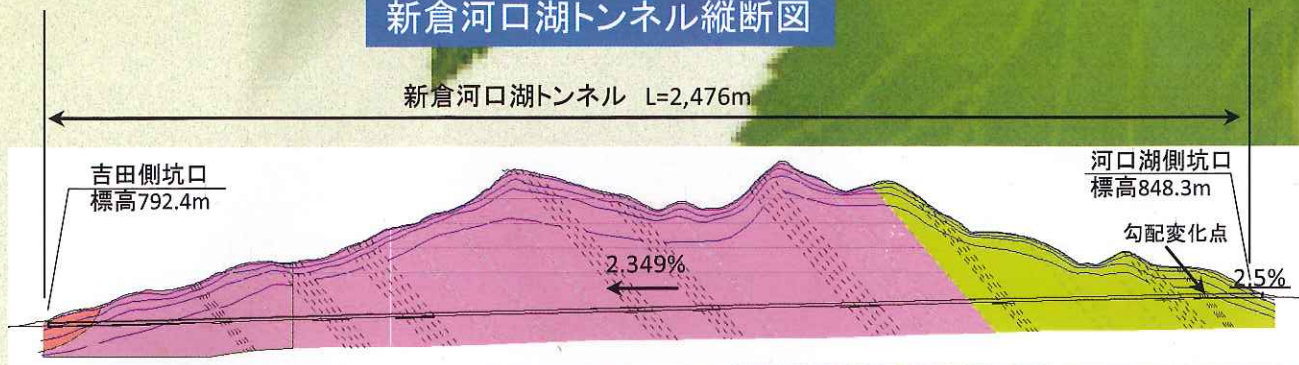
計画内容

路線名: 一般国道137号 吉田河口湖バイパス
 所在地: 富士吉田市旭町～富士河口湖町河口
 事業費: 約90億円
 事業期間: 平成18年度～平成26年度

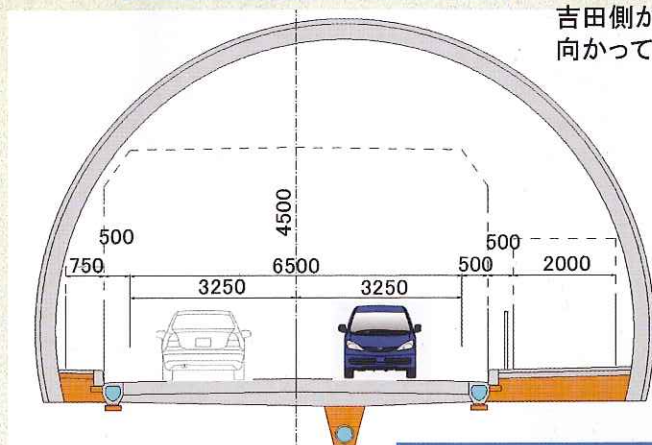
計画諸元

延長: 2.8km
 幅員: 6.5(10.0)m
 道路規格: 第3種2級

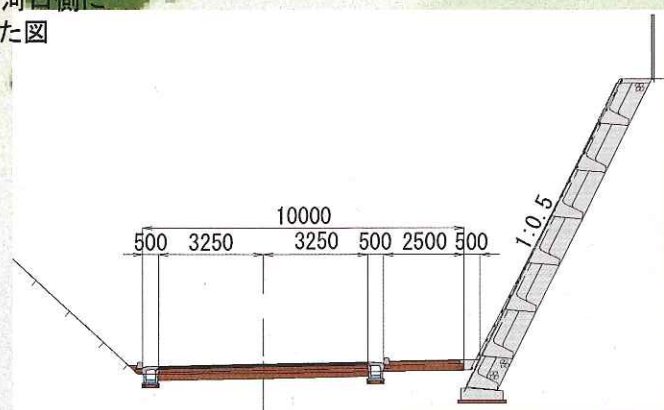
新倉河口湖トンネル縦断面図



トンネル部標準断面図

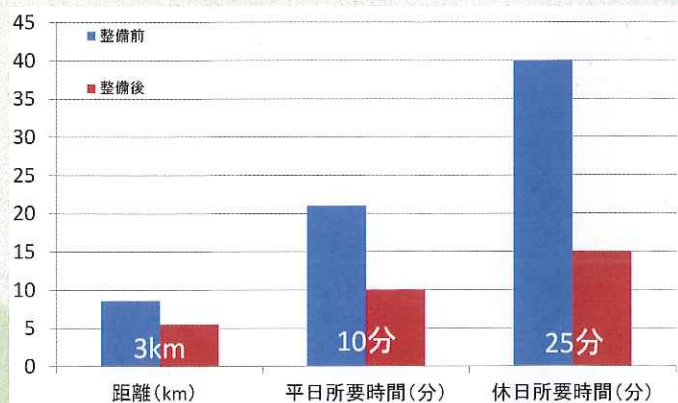


一般部標準断面図



供用時の整備効果

距離と時間の短縮



【河口交差点⇄富士吉田市役所】

整備前は富士吉田市⇄甲府方面間は河口湖畔を通過していたが、バイパスの整備により、距離にして3km、時間にして10～25分の短縮となった。

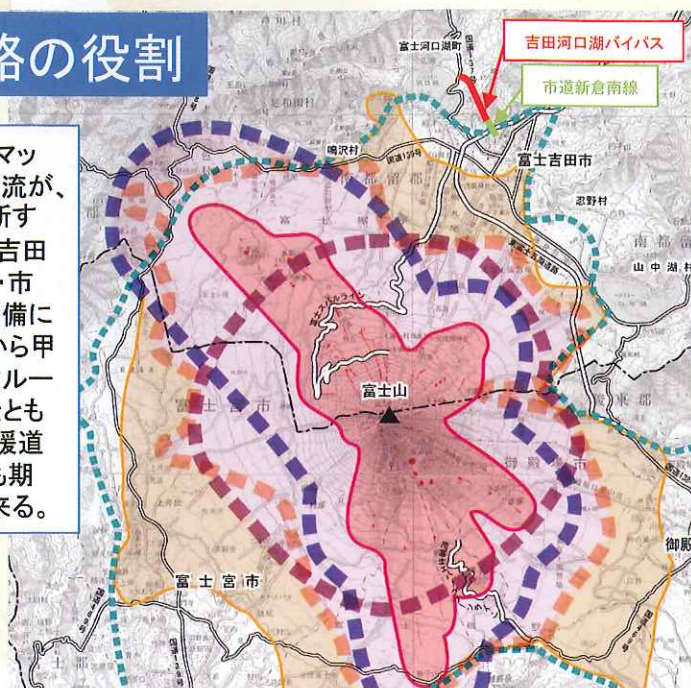
交通渋滞の緩和



富士北麓地域の道路で朝夕や観光シーズンに慢性的に発生していた渋滞が、吉田河口湖バイパス・市道新倉南線の供用に伴い、交通の転換が図られ、渋滞緩和が期待されます。

防災道路の役割

富士山ハザードマップによると、溶岩流が、国道137号を寸断するとされている。吉田河口湖バイパス・市道新倉南線の整備により、富士吉田から甲府方面への避難ルートが確保されるとともに、災害復旧支援道路としての役割も期待することが出来る。



図の見方と記号の意味

- 火口ができる可能性の高い範囲
(この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)
- 過去に火口が出来た箇所
(平成14年9月末日時点での調査による)
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。
(噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。)
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
火口から噴出した石がたたく範囲(この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲(3時間程度を想定)
- すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人(お年寄りや入院患者等)は早めに避難して下さい。
(溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいで到達するかもしれない範囲を示しています。)
- 雪が積もっている時に噴火しそうな場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります範囲です。
(積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。)

吉田河口湖バイパスの管理

吉田河口湖バイパスの監視について、吉田支所内にあるモニターで監視を行うとともに、笛吹市石和町にある新環状・西関東道路建設事務所に監視制御室を設け、新山梨環状道路や県内の長大トンネルと併せ、24時間体制で行い道路利用者の安全確保に努めています。



トンネル内監視カメラ



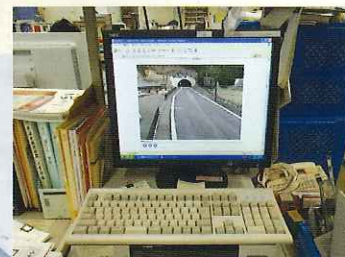
トンネル内非常電話



監視制御室



監視制御モニター



吉田支所内モニター

山梨県県土整備部道路整備課

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

TEL055-223-1686 FAX055-223-1693

山梨県富士・東部建設事務所 吉田支所

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田1-2-5

TEL0555-24-9086 FAX0555-24-9052